

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 2 区分

【発行日】令和 3 年 7 月 26 日 (2021.7.26)

【公開番号】特開 2020-24978 (P2020-24978A)

【公開日】令和 2 年 2 月 13 日 (2020.2.13)

【年通号数】公開・登録公報 2020-006

【出願番号】特願 2018-147680 (P2018-147680)

【国際特許分類】

H 0 1 S 5/10 (2021.01)

G 0 3 B 21/00 (2006.01)

G 0 3 B 21/14 (2006.01)

【F I】

H 0 1 S 5/10

G 0 3 B 21/00 E

G 0 3 B 21/14 A

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 5 月 31 日 (2021.5.31)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 5 6】

1 . 3 . 3 . 第 3 変形例

次に、第 1 実施形態の第 3 変形例に係る発光装置について、図面を参照しながら説明する。図 1 0 は、第 1 実施形態の第 3 変形例に係る発光装置 1 3 0 を模式的に示す断面図である。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 3】

図示の例では、「p」は、7 であり、「q」は、6 であり、「r」は 1 である。p 個の格子点 G で構成される図形は、6 回対称である。格子点 G は、図示しない正六角形の各頂点と、該正六角形の中心と、に配置されている。第 2 柱状部 3 0 b の中心 C と、第 2 柱状部 3 0 b の中心 C に最も近い格子点 G と、の間の距離は、例えば、5 nm 以上 25 nm 以下である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 3】

上述した発光装置 2 0 0 では、図 1 1 に示すように、柱状部集合体 4 0 は、7 個の柱状部 3 0 からなっていた。これに対し、発光装置 2 2 0 では、図 1 3 に示すように、柱状部集合体 4 0 は、3 個の柱状部 3 0 からなる。図示の例では、格子点 G は、図示せぬ正三角形の各頂点に配置されている。